

# 薬局を使い倒す!

けがないと薬局には入りづらいため、地域の人と出会うの場を作り、健康に関する情報提供をするために始めたのが『りんごCAFÉ』です。(勝野さん)

近隣の高齢者を対象に毎月1回、基本的には第1月曜日の午後2～3時、お茶を飲みながら健康に関する情報提供を行う。勝野さんのミニ講演会に加えて、近隣のデイサービス職員にも協力してもらい、体操の間も設けている。参加者は5～10人程度で、毎回参加する人もいろいろ。

「テーマは薬のことだけではなく、トイレの話、睡眠、認知症、風邪予防など、その時々で話題になっていることや季節を考えて設定しています」(同)

この日のテーマは、関東が梅雨明けして間もない時期だったこともあり、熱中症。参加者からは質問も飛び、話題はサプリメントや

薬の飲み合わせに発展した。

参加した手塚寿美さん(76)は、「ここに来ると、ふだん気になっていた薬や病気のことを気軽に相談できます。体操で体力作りもできるし、みんなに会えるのも楽しみです」と話す。

また、りんご薬局には、処方箋調剤ではなく、市販薬や衛生用品の購入を目的に訪れる地域住民も多い。薬は正しく使えば病気やケガの回復を助けてくれるが、飲み合わせが悪かったりすると思わぬ事故を引き起こすこともあるからだ。

「患者さんの服薬状況を把握しているので、市販薬やサプリメントを使うときに、適切なアドバイスができます」(勝野さん)

介護に直面し、紙おむつや口腔ケア用品などが必要になった場合も、健康サポート薬局なら病態にあった適切な衛生用品を紹介してもらえらる。

## 自宅に薬を届ける在宅訪問業務も

障害があるなどして、薬局に来るのが難しい患者には、医師の指示による在宅訪問業務も行っている。勝野さんは、単に薬を届けるだけではなく、患者の状態に合わせて、いつ、どの薬を飲むかが一目でわかる「お薬カレンダー」を作って渡すこともある。薬剤師の配慮によるもので、カレンダー1分の加算はない。

## 地域の医療機関や介護事業所と連携

また、必要に応じて、近隣の医療機関や地域包括支援センター(包括)に患者を紹介することもある。「がんの末期は介護保険を利用できるのですが、そのことを知らないまま過ごしている患者さんがいました。そこで、包括に連絡して、生活支援をお願いしたこと

もあります」(勝野さん)

在宅での服薬指導や医療機関、介護事業所の紹介が必要になるのは、主に高齢期になってからだが、一定の年齢になったら健康作りについて相談できる薬局を見つけておくと安心だ。

「健康サポート薬局は、健康相談から在宅での服薬指導まで、幅広く対応できる薬局です。長い人生の健康作りのパートナーになれるので、処方箋がなくても、気軽に相談に来てほしいです」(同)

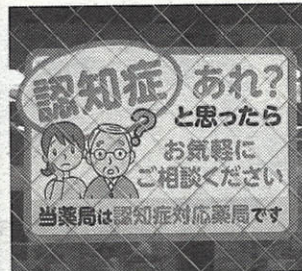
健康サポート薬局には、それとわかる掲示やロゴマークが店内や外壁などに掲げられている。厚生労働省のホームページにある「薬局機能情報提供制度」から、届け出している薬局を見つけられることも可能だ。

## 発見に一助の認知症対応薬局

認知症の有病率が上昇し

た場合、25年の認知症患者は約730万人となり、65歳以上の5人に1人が認知症を発症するといった推計がある(内閣府「平成29年版高齢社会白書」)。こうした状況に先手を打って、薬局を通じた認知症の早期発見や相談体制作りをしているのが福島県だ。

全国に先駆けて認知症患者の対応に取り組んできた宮城県の仙台市薬剤師会をモデルに、17年に県内6市で研修プログラムを実施。認知症患者に対応できる人材育成を行っている。この研修を受けた薬局を、今年4月から「認知症対応薬局」として認定。8月17日現在、福島県内にある100軒の薬局が認定を受けており、



認知症対応薬局の目印

症。参加者からは質問も飛び、話題はサプリメントや

適切な衛生用品を紹介してもらえらる。

そこで、包括に連絡して、生活支援をお願いしたこと

認知症の有病率が上昇し



認知症対応薬局

### 認知症対応薬局

入り口などに識別できるステッカーが張ってある。そのなかで精力的に活動しているのが、郡山市にある山口調剤薬局大町店（以下、山口薬局）だ。前出の健康サポート薬局の届け出も行っており、代表取締役で薬剤師の山口仁さんは、「町の薬局は健康作りのインフラ。認知症の早期発見にも役立ててほしい」と話す。

同局で認知症対応の中心的役割を果たす管理薬剤師の村上智恵子さんが続ける。



山口仁さん



認知症対応する村上智恵子さん

「かかりつけの薬剤師や薬局は、患者さんとの長い付き合い合いの中で、普段の様子を把握しています。そのため、認知症を発症した場合も服薬指導や健康相談を通じて、『〇〇さん、いつも様子が変わる機会が多いのです。認知症対応薬局は、地域の医療機関や包括とも連携をとっているのです。認知症が疑われる場合は専門医の紹介などで、適切な治療につなげられる。実際、村上さんは、患者の家族から相談を受けて認知症チェックを行い、専門医につないだことも、『常連』患者の異変に気付き、包括に連絡をとったこともあるようだ。病状が進行した場合も、認知症について詳しい薬局・薬剤師が対応するので、薬の飲み忘れや過剰服用がないように注意を払ってもらえるメリットがある。」

「早期発見して治療を始めれば、症状の進行を遅らせる可能性も期待できます。また、地域全体で見守る体制も作りやすく、ご家族の負担も軽減できるので、心配があればまずは薬局に相談してほしい」（山口さん）

山口薬局では「認知症が気になる」という人や家族の希望に応じて、簡単な認知症チェックも行っている。詳しい検査を受けたい場合は、「物忘れ相談プログラム」という検査機器を用いて対応しており、1回500～1000円だ。

### 無菌調剤室で在宅治療が可能に

また、山口薬局は無菌調剤室を備えているのも強み。

完全な清浄環境で薬を調合する設備で、在宅治療に必要な点滴パック、高カロリー輸液などの調合が可能だ。近隣の薬局も共同利用できるように開放している。「薬局に無菌調剤室があれば、



山口薬局の無菌調剤室

これまで入院でしかできなかった治療も在宅で受けられます。高齢になって介護状態が進んだり、がんの末期になったりしても、『家に帰りたい』という患者さんの希望をサポートできるのです」（山口さん）

実際、自宅での最期を希望した患者から感謝されたこともあるという。

このように薬局はさまざまななかたちで患者のニーズに寄り添っている。東京電力福島第一原子力発電所の事故で甚大な被害を受けた福島県では放射線について不安に思う住民も多いが、

福島県薬剤師会独自の取り組みとして、放射線について正しい知識を持つ「放射線ファーマシスト」の育成も行っており、近隣住民からの相談にのっている。

このほか、スポーツ選手を予期せぬドーピングから守る「スポーツファーマシスト」、禁煙したい人を応援する「禁煙サポート薬局」もあり、患者や住民の健康作りに積極的に関わる薬局は増えつつある。

健康サポート薬局も、認知症対応薬局も、現状では届け出をしている薬局の調剤報酬が高くなるわけではない。健康作りのサポートをしてくれる薬局も、何もしてくれない薬局も、処方箋調剤の単価が同じなら、どちらを利用したら得かは言わずもがなだろう。

自分のニーズを満たす薬局を探して、長く付き合うことが、10年後の健康を手に入れる鍵になりそうだ。